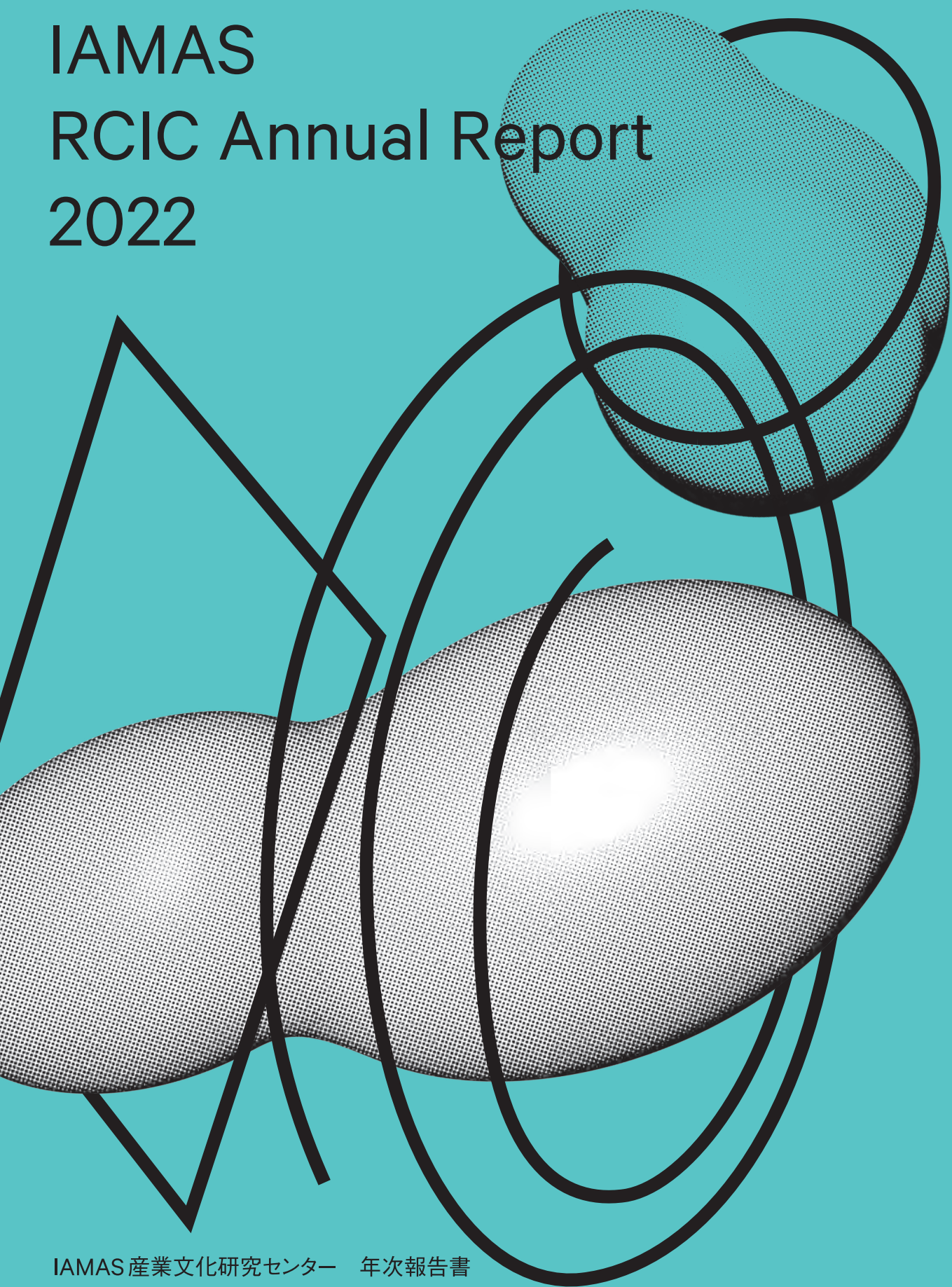
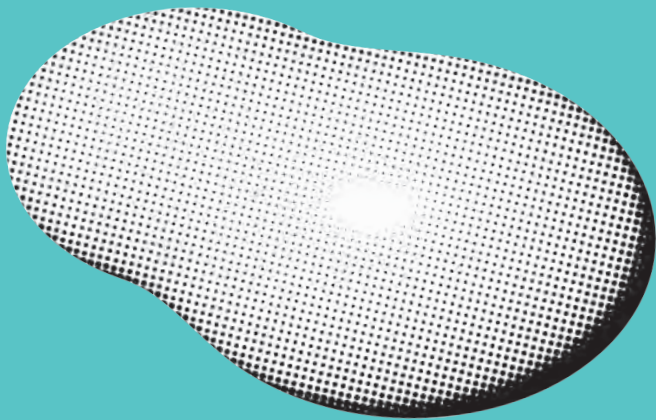


IAMAS RCIC Annual Report 2022





RCICと3つの役割について _____ 04

地域連携・産学官連携活動 _____ 06

「ジュニア宇宙博士認定講座」における学習環境デザインの実践的研究 他 / 連携までの流れ

文化活動 _____ 10

Ogaki Mini Maker Faire 2022 他

広報・情報アーカイブ活動 _____ 12

Kioskを使った展示型広報の展開 他

2022年度のRCICの活動を振り返って _____ 14

2022年度IAMASの活動事例 _____ 16

2022年度活動リスト _____ 20

各活動情報等については、本センター Web サイトでも常時公開しており、より詳細な情報や、紙面ではお見せできない動画等のコンテンツもご覧いただけます。

本書の各ページに掲載しているQRコードから、それぞれの活動関連ページにアクセスいただくことができます。

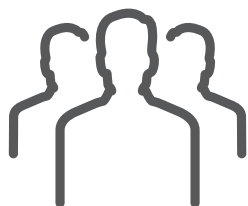
RCIC Web サイトはこちら

過去の年次報告書はこちら



産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。

産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、以下の3つを軸として活動しています。



地域連携・
産学官連携活動



文化活動



広報・
情報アーカイブ活動

IAMASの活動の社会的な展開を目指す

地域連携・産学官連携活動

IAMASの教育研究活動を広く社会に周知し、また、研究成果を活かした産学官連携や地域連携を行っています。

県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等とさまざまな連携を試行しています。

- 学内シーズ(技術・デザイン等)や研究成果の紹介
- 教育研究機関との研究連携
- 営利企業や非営利団体、自治体との共同研究や受託研究
- 自治体や教育機関との連携による新しい教育事業の推進
- 県内研究機関とのネットワーク構築



IAMAS の活動を広く社会に広めるための

文化活動

教育・文化機関とのネットワークを築き、学内での展覧会・交流会やイベント等、さまざまな文化的な催しの運営・補助を行っています。

また、大小さまざまなレクチャーやシンポジウムの企画・運営も行っていきます。

- 卒業制作展の監修
- 学外連携事業の企画・運営
- IAMAS オープンハウスの監修
- レクチャーやシンポジウム等の企画・運営



教育・文化的な貢献や情報発信を目指した

広報・情報アーカイブ活動

IAMAS Web サイトの運営、広報物の制作・管理、アーカイブ機能としての展覧会カタログ等の刊行物制作、学内イベントの記録構築等を行っています。

また、県内の研究機関・研究者とのネットワーク構築や、IAMAS 卒業生との連携・協力等による IAMAS ネットワークの強化にも力を入れています。

- Web サイトの運営
- SNS による情報発信
- 広報物の企画制作・管理
- 展覧会カタログ等の刊行物の企画・制作・監修
- 学内の研究成果報告を目的とした展示会の企画・運営
- 教員や学生の地域連携・産学官連携活動に関する調査と報告
- 卒業生を対象とした連携企画の運営



Feature 「ジュニア宇宙博士認定講座」における学習環境デザインの実践的研究

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館が実施する子ども向け講座「ジュニア宇宙博士認定講座」の学習資源を活かした学習環境のデザインングを、IAMASの施設「イノベーション工房」を用い、博物館や本学の卒業生と連携し、共同研究として展開。子どもたちの意欲を高められるような学習環境の提供を目指し、今年度のテーマ「ロケット」をモチーフに講座のトータルデザインを意識した教材の開発に取り組んだ。



プロセス①
講座

スライドや博物館の展示物を見たり、実験をしたりしながら、学んだ知識や実験結果等をワークシートに記入して行く形で講座を展開。また、講座終了時のリフレクションシートへの記入を通して、自身の取り組みを評価し、頑張りを可視化する。

プロセス②
リフレクション / 他己評価

講座スタッフが内容を確認しながら机間指導を行い、合格証に惑星・衛星シールを貼ってまわることで、他己評価へも繋げる。



プロセス③
成果

合格証に全6講座分のシールが貼られるとジュニア宇宙博士認定に認定され、認定式で修了証（写真上）が授与される。書き溜めたワークシートやリフレクションシート、合格証はファイリングし、自身の取り組みの成果物として持ち帰る。

デジファブと教育とロケット

多様な視点から考えるデザインの展開と新たな可能性



IAMASの製作物を見た岐阜かかみがはら航空宇宙博物館から、教材製作について相談があり、それに応える形で今回の連携を企画。講座のトータルデザインを通して、参加者の学習意欲を高められるような環境の提供を目指すと共に、IAMASのデザイン研究を実践することで、そのプロセス、及び効果について考察することを目的に運営した。

博物館と本学卒業生のデザイナー協力のもと、小学校高学年から中学生の子どもたちが学びや達成感を自覚的に得られるよう、全6回の講座を通し活用していく教材を製作した。受講し、教材を扱った子どもたちからは、デザイン性の高い教材に講座への期待感を高める発言や、各回の講座で得た気づきをシートに取りまとめることで、ステップアップを意識し積極的に学ぶ様子等が見受けられた。デザインプロセスの面では、各回の内容に応じたレイアウト変更や、講師や博物館スタッフ等、デザイナー以外の第三者でも編集可能なフォーマットに関して、全6回の講座の中で展開を重ねたことで知見を得ることができた。

■ IAMASの役割

本連携における本学の役割としては、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との打ち合わせの上、教材製作を担当した。修了証に関しては、博物館の意見をもとにデザイナーが作成した修了証のデザイン案を踏まえ、本学の施設「イノベーション工房」の設備であるレーザー加工機や真空成形機、UVプリンター等の活用を提案し、より立体的で、子どもたち自身が組み立て可能な仕掛けのある修了証を製作した。

■ 連携先

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

■ 開催場所

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 IAMASイノベーション工房

■ 担当教職員と協力者

デザイン：大山 千尋 / 制作：伊澤 宥依 (RCIC) / 制作補助：浅尾 楽 (IAMAS M1) 門田 健嗣 (IAMAS M1) / 運営：赤羽 亨 (IAMAS 教授・RCICセンター長) 中畑 竜憲 (IAMAS 事務局) 佐々木 紘子 (RCIC)

■ 詳細情報



その他の事例

■ 共同研究

オアシスパークの観光資源を用いたメディア表現の展開における実践的研究

連携先：株式会社オアシスパーク
連携期間：2021.04 — 2022.08



IAMASの2つの研究をオアシスパークに合わせて展開した。M2今谷真太郎の修士研究「ARコミック」では、パークを舞台とした漫画作品の配信イベントを開催した。

■ イアマスこどもだいがく2022

連携先：大垣市情報企画課
連携期間：2022.04 — 11

■ 教育事業

岐阜県立森林文化アカデミー連携授業「デジタルファブリケーション」

連携先：岐阜県立森林文化アカデミー
連携期間：2022.09



「木と道具」をテーマに、IAMASイノベーション工房でレーザー加工機を用いてアカデミー学生が作品制作を行う連携授業を運営した。

アートラボぎふ「メディアアート・ワークショップ『音のなる器』を紡ぐ」

連携先：岐阜県 公益財団法人岐阜県教育文化財団
連携期間：2023.01

メディコス広場づくりアイデア創出ワークショップ

連携先：みんなの森 ぎふメディアコスモス
連携期間：2023.02

IAMASでは、県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等と連携することで、本学の情報科学技術と地域文化研究の成果を深化させるとともに、連携の成果によって地域社会へ貢献することを推進しています。附置機関である産業文化研究センターが、連携の相談から、教員やプロジェクトとのコーディネート、研究や事業契約の締結等のサポートを行っています。





大垣市情報企画課と連携した
「イアマスこどもだいがく2022」の講座の様子：体に取り付けたセンサーを曲げ
て動かすアニメーション制作



株式会社オアシスパークと連携した
「NxPC.Live vol.57 SpinEcho」のパフォーマンスの様子：K×S

Feature Ogaki Mini Maker Faire 2022

Ogaki Mini Maker Faire®

Maker Faireは、電子工作、クラフト、ロボティクス、モビリティ、科学、アート/デザイン、電子楽器等、さまざまな分野のつくり手「メイカー」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさを共有するメイカームーブメントの祭典。

大垣での開催は今回が7回目となった。前回の2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により小規模かつハイブリッド形式での開催となったが、今回は2018年の規模感に戻した物理会場をメインとしての開催となり、個人・グループ・コミュニティ・教育機関・企業等の多様なMakerによる展示・プレゼンテーション・ワークショップを実施し、結果として2500名を超える来場者数となった。

今回は物理会場に加えて新たな試みとして〈メタバース〉会場も設け、物理会場へ足を運ぶことのできない方々に向けての新たな鑑賞体験の機会をひらいた。

今回は合計102組のMakerによる出展となった。本イベントではMakerによる作品出展に加えて、物理会場でのプレゼンテーション・ワークショップも合わせて実施された。プレゼンテーションについては21組の発表があった。物理会場での発表の様子はYouTube Liveでも同時配信された。ワークショップについては7組の実施があった。感染症対策を踏まえ、ある一定の人数制限を行う等配慮のもと実施された。新たな試みである〈メタバース〉会場について、2D会場はGather、AR・VR会場はSTYLYを公式プラットフォームとして開催した。2D会場は102組、AR会場は12組、VR会場は15組の出展となった。また関連イベントとして、岐阜クリエーション工房による成果展示・報告会と、NxPC Lab.によるライブパフォーマンスが合わせて実施された。



物理会場と〈メタバース〉会場による ハイブリッド開催の中で 「つくることから、はじめよう。もの／あそび／ぶんか」

本イベントの目的は、さまざまなMakerとの作品を通じた交流・対話から、来場者とのものづくりに対する楽しさや親しみを共有する機会を実現させることにあった。前々回の2018年と同規模の出展者数に引き戻したことによって、前々回に引けを取らない多彩なMakerの出展を通じたコミュニケーションの創発がみられた。

また本イベントは〈メタバース〉会場の開催によって、物理会場に来場することができない人々へのアクセシビリティの拡張を行うことで、より広くMakerの出展作品を知ってもらい、多様なメディアを通じて交流を行う「場」をつくることができた。

本イベントはコロナ禍の経験を踏まえた上での、物理会場と〈メタバース〉会場のハイブリッドによる新たなMaker Faireの開催方式の提案を行うことができた機会であったといえる。

■ IAMASの役割

岐阜県内の企業、教育機関、自治体で構成される実行委員会の事務局として、本学の事務局と産業文化研究センターが中心となり、物理会場ならびに〈メタバース〉会場でのイベントの企画・調整・デザイン・広報から当日の運営に至るまで全ての段階に総合的に関わった。

■ 連携先

Ogaki Mini Maker Faire 2022 実行委員会
株式会社オライリージャパン

■ 開催場所

ハイブリッド

物理会場：ソフトピアジャパンセンタービルソピアホール、他
〈メタバース〉会場：2D会場：Gather、AR・VR会場：STYLY、他

■ 担当教職員と協力者

総合ディレクター：小林 茂 (IAMAS 教授) / ディレクター：佐々木 樹 (RCIC) / 会場構成・プロジェクトマネージャー：八嶋 有司 (アーティスト・名古屋文理大学情報メディア学科 助教) / Web広報：伊藤 晶子 (RCIC) デザイン：大山 千尋 / 運営：山田 陽子 (IAMAS 事務局) 中畑 竜憲 (IAMAS 事務局) 清水 伊代 (IAMAS 事務局) 鷺見 篤 (IAMAS 事務局) 伊澤 宥依 (RCIC) 佐々木 紘子 (RCIC)

■ 詳細情報



その他の事例

■ 運営

IAMAS ARTIST FILE #08

「記譜、そして、呼吸する時間」

場所：岐阜県立美術館

日程：2022.07.01 — 09.11



D2福島諭の個展を企画運営し、コンピューターと木管楽器による室内楽作品を岐阜県美術館 [展示室2] に空間展示した。

IAMAS OPEN HOUSE 2022

場所：ソフトピアジャパン センタービル、ワークショップ24

日程：2022.07.23 — 24



学生作品や研究成果の展示、進学説明会、学内ツアー等をキャンパスを会場として企画運営した。

IAMAS2023

第21回修了研究発表会・プロジェクト研究発表会

場所：ソフトピアジャパン センタービル

日程：2023.02.23 — 26

Feature Kioskを使った展示型広報の展開

さまざまな場所で IAMAS の学校紹介・連携活動報告を紹介することのできる展示方式の広報について計画し、空間デザインシステム「Kiosk」を用いて、企画から施工までを卒業生のデザインコレクティブ「LAP」と協働して行った。2022 年は IAMAS OPEN HOUSE 2022 と大垣市役所での展示を行った。



空間デザインシステム「Kiosk」でデザインする新しい広報の形

これまでWebや冊子の制作、またIAMASが主催のオープンハウスや卒業等で研究成果・産学官連携の報告を行ってきた。しかしメディアや開催形式の特性上、IAMASをすでに知っている、興味のある人等、伝える対象が限定的だった。展示方式での広報を行うことによって、学外で広報が可能になり、地域への認知向上、IAMASへ興味を持ってもらうタッチポイントを増やすことができると考えた。そのため可変の展示フォーマットを設計し、さまざまな場所へも対応ができることを検討した。オプションパーツやジョイントパーツを用いて、空間構成を容易に変更することができる特徴を生かし、さまざまな場所や展示内容に対応できることから、Action Design Research ProjectとIAMASの卒業生によるデザインコレクティブ「LAP」が協働し制作した空間システム「Kiosk」を採用した。

今回も「LAP」と協働し、空間からポスターにいたるまでのデザインを依頼。IAMASの刊行物を配布・閲覧できる本棚、モニターを設置できる棚をKioskのオプションパーツとして新たに開発した。

2022年7月にIAMAS OPEN HOUSE 2022で、11月には大垣市役所での展示を実施。大垣市役所では、「イアマスこどもだいがく」の成果報告を含めた展示へとアップデートを行った。

展示形式での広報によって、ポスターや冊子、動画等複数のメディアを用いることで、IAMASの取り組みについて複合的な伝え方を作ることが可能になった。今後もこのフォーマットを展開した展示を行ってきたい。



上：IAMASの研究紹介として、プロジェクト授業を紹介するポスターや、「第21回修了研究発表会・プロジェクト研究発表会」のアーカイブ動画を展示した
下：大学案内パンフレットや展覧会カタログ、紀要等、IAMASの刊行物を配布した

その他の事例

■運営

WebサイトやSNSによる情報発信

IAMAS Webサイト IAMAS SNS RCIC Webサイト
Ogaki Mini Maker Faire 2022 Webサイト

卒業生インタビューの企画運営

IAMAS Graduate Interviews



教授がインタビュアーとなって卒業生にインタビューする企画を運営。インタビュー記事は全てWebサイトで常時公開しており、上記QRコードからご覧いただくことができます。

■監修

大学案内パンフレット

IAMAS School Guide 2023 IAMAS Interviews 03

展覧会等のWebサイト・カタログ

IAMAS OPEN HOUSE 2022 Webサイト
IAMAS 2022 (第20回修了研究発表会・プロジェクト研究発表会カタログ)
Ogaki Mini Maker Faire 2022 開催報告書

教員や学生の研究を紹介するWebサイト・カタログ

IAMAS Annual 2022
IAMAS RCIC Annual Report 2022 -IAMAS 産業文化研究センター 年次報告書-

各刊行物については、本学Webサイトでも常時公開しており、下記QRコードからご覧いただくことができます。

大学案内パンフレットはこちら 展覧会カタログ等はこちら



■講演

ソフトピアジャパン・ピッチ大会「産学官連携拠点としてのソフトピアジャパンセンター」

場所：ソフトピアジャパン センタービル1F セミナーホール
日程：2022.08.29

IAMAS TALK SESSION -Fab Meetup vol.9-

場所：FabCafe Nagoya
日程：2023.02.03



大垣市役所では、市との連携事業「イアマスこどもだいがく2022」の記録や成果物の展示も行った

■IAMASの役割

展示型展示に関するプランニング、トータルディレクション

- ・具体的な展示内容の策定
- ・ポスターや動画の計画・ディレクション・デザイナーへの依頼
- ・学外展示の打ち合わせ

■連携先

LAP 大垣市

■開催場所

ソフトピアジャパン センタービル1F 大垣市役所1F 多目的スペース

■担当教職員と協力者

ディレクター：赤羽 亨 (IAMAS 教授・RCICセンター長) / kiosk設計：
富田 太基 (LAP) / デザイン：大山 千尋 (LAP) / 映像編集：丹羽 彩
乃 / 編集：伊藤 晶子 (RCIC) 佐々木 紘子 (RCIC) 佐々木 樹 (RCIC)
/ イアマスこどもだいがく展示協力：平林 真実 (IAMAS 教授) 山田 晃嗣
(IAMAS 准教授) 小林 孝浩 (IAMAS 教授) 浅尾 楽 (IAMAS M1)
塩澄 祥大 (IAMAS M1) 篠田 幸雄 (プロジェクト研究員)

■詳細情報



2022年度は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が緩和され、対面で行われる事業やイベントが本格的に再開され始めた年度と位置づけられるでしょう。産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）が行った、「地域連携・産学官連携活動」、「文化活動」、「広報・情報アーカイブ活動」の3つの活動についても、来場者や参加者を想定したイベントやワークショップ、展示が対面で行われました。

「地域連携・産学官連携活動」では、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館と共同でワークショップの学習環境デザインの研究に取り組んだほか、大垣市と連携し、「イアマスこどもだいがく」を企画し実施しました。

「文化活動」では、隔年で開催されている「Ogaki Mini Maker Faire 2022」のほか、オープンハウスや修了研究発表会を中心としたIAMAS主催イベントの運営を担い、その内容について研究レポートや卒展カタログ等で公開しています。

「広報・情報アーカイブ活動」では、Webや出版物の制作に加え、ポスターや映像を使用した展示型の広報を、オープンハウスや大垣市役所等で展開しました。

来年度以降は、学内の研究成果を起点にした共同研究や地域連携について、これまで以上に注力するとともに、展示型広報のさらなる展開を模索していきたいと考えています。

RCIC センター長
赤羽 亨

RCIC のスタッフ紹介

センター長を含む教員 3 名、研究員 2 名、情報支援専門職員 1 名、技術支援専門職員 1 名で運営しています。



赤羽 亨 (Kyo Akabane)

RCIC センター長 / IAMAS 教授

インタラクションデザインの観点から、メディアテクノロジーを活用した協働デザインのための環境構築に関する実践的な研究を行っている。



平林 真実 (Masami Hirabayashi)

IAMAS 教授

コミュニケーションシステムという観点から研究を実施。近年はNxPC.Lab 名義の音楽イベントを起点に音楽体験の拡張をテーマとした研究を行っている。



前田 真二郎 (Shinjiro Maeda)

IAMAS 教授

映像作家として撮影行為を基盤とした映像表現を研究。舞台、音楽、美術領域の作家との協働を積極的に展開し、展覧会等の企画運営も担当する。



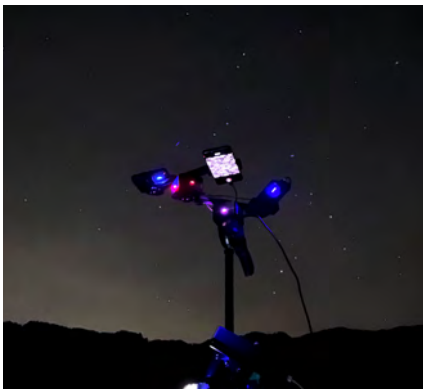
佐々木 紘子 (Hiroko Sasaki)

研究員

RCIC では主に学外の企業や自治体との共同研究・地域連携ネットワーク構築といった連携推進業務を担当する。専門は地域や教育を題材とした美術表現。

タレスの刻印

実施期間 2019.04.01 — 2022.12.31

時間をかけた制作の中に内在する
インタラクティブ・アート性

「タレスの刻印」は特殊な撮影方法によって星空を長時間露光した写真および動画であり、それらを展示した展覧会である。この作品は古代ギリシアの哲学者タレスが星空を見上げながら歩いていて、道端の溝に気が付かず転倒した故事に由来している。移動しながら観察することは相対運動として複雑な事象を引き起こし、その記録は予測不可能な複雑性を持ち、流麗で魅惑的な表象が現れる。そのような事象に触発されて作品を制作した。

■ 担当教員

赤松 正行 (IAMAS 教授)

左上: Thales-exhibition
右上: Thales-artwork
左下: Thales-equipment
右下: Thales-exhibition

リバイバル 25 周年展 藤原市三郎 《森に還る》

実施期間 2021.12 — 2022.05



アーカイブの編集や構成を通して見つめる土着性と時代性



メインビジュアル

■ 担当教員

瀬川 晃 (IAMAS 准教授)

森の文化博物館に残された一枚の年譜をたよりに、旧春日村出身の芸術家・藤原市三郎 (1911-1975) の作品展示を行った。博物館で開催された「藤原市三郎 石と絵の展覧会 (1997年)」から25年。市三郎の作品と人生から見てきた、旧春日村の自然・歴史・文化を掘り下げ、伝承する機会を担った。



展示全景

ねお展：アジール（自由領域）であり続ける地域のこれまで そしてこれから

実施期間 2022.06 — 11

千五百年以上存在し続ける
「アジールとしての根尾」をそれぞれが作品化する

IAMASのCommunity Resilience Research (CRR)プロジェクトが研究成果として、企画展「ねお展：アジール（自由領域）であり続ける地域のこれまで そしてこれから」を岐阜県博物館マイギャラリーで開催した。これにあわせて本巣市根尾地区の多くの方々も参加協力し地域連携のひとつの形を示すことができた。



右：越波村の住民たちによる記録物
左：ねお展で作品を鑑賞する人

■ 担当教員

金山 智子 (IAMAS 教授) 小林 孝浩 (IAMAS 教授)
吉田 茂樹 (IAMAS 教授)

■ 担当プロジェクト

Community Resilience Research

—佐治敬三賞受賞記念— ぎふ未来音楽展 2022 三輪眞弘+福島諭 二人展

実施期間 2022.09.18



多方面との連携を通して、
未来の音楽を「みる・きく・よむ」

『日々《変容の対象》8月』

日本の音楽界で独自の存在感を示してきた作曲家・三輪眞弘を応援し、ともに「ぎふ未来音楽展」を開催してきたサラマンカホールにとって、2020年度のサントリー音楽賞(三輪眞弘)と佐治敬三賞(サラマンカホール)のダブル受賞は格別のよこごびであった。

それを記念して、未来の音楽を岐阜から考える、全国的にも意義のある企画として「ぎふ未来音楽展2022」を開催した。作曲家・福島諭との師弟「二人展」と、特別ゲストを迎えての記念シンポジウムをダブルでお届けした。



■ 担当教員

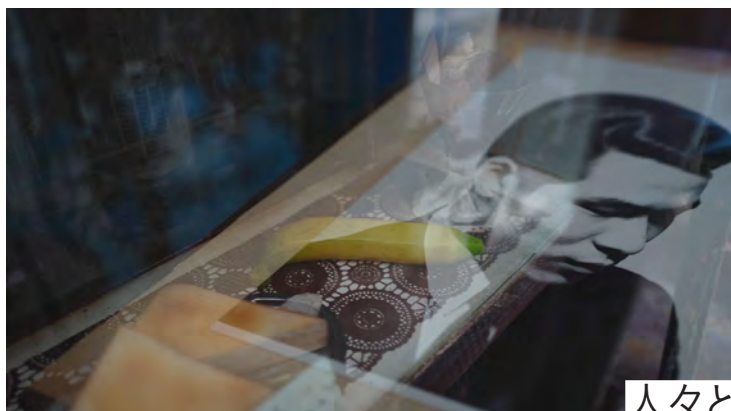
三輪 眞弘 (IAMAS 教授) 前田 真二郎 (IAMAS 教授)

上: 「弦楽六重奏曲『369 Harmonia II』」

下: 記念シンポジウムの様子

場所・感覚・メディア — 「柳ヶ瀬」

実施期間 2022.10.17 — 31



Yanagasense (ヤナガセンス)

今年度から発足したプロジェクト「場所・感覚・メディア」では、参加メンバーが実際に場所を訪れ、感じ、考えたことを、ある形へと変換し、表し、語り合ってきた。そのプロセスの中でまたあらたな「場所」のイメージが生まれ、わたしたちの「感覚」も変容していく—このようなテーマを共有しながら作品制作、展覧会企画に取り組んだ。

人々との交流やメディアを通して
場所体験を異化し、思考する

■ 担当教員

前林 明次 (IAMAS 教授) ジェームス・ギブソン (IAMAS 准教授)
小林 昌廣 (IAMAS 教授)

■ 担当プロジェクト

場所・感覚・メディア



ピッカフェでの展示風景

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教職員	カテゴリー
THE ドラえもん展	2022.04.02 — 05.22 2022.11.05 — 翌02.05	岡山県立美術館 (共) シンガポール国立博物館 (共)	クワクボリョウタ	展示
願成寺古墳群美術展 2022	2022.04.23 — 05.29	2022美濃国池田山麓物語実行委員会 (主)	赤松 正行 瀬川 晃	地域連携 展示 制作・開発・デザイン
越後妻有 大地の芸術祭 2022	2022.04.29 — 11.13	NPO法人越後妻有里山協働機構 (主)	クワクボリョウタ	地域連携 展示
第68回オーバーハウス国際短編映画祭	2022.04.30 — 05.09	オーバーハウス国際短編映画祭実行委員会 (主)	前田 真二郎	上映 文化活動
リバイバル25周年展 藤原市三郎《森へ還る》	2022.05.01 — 22	春日森の文化博物館 (主・場)	瀬川 晃	地域連携 展示 撮影 制作・開発・デザイン
amazarashi Live Tour 2022「ロストボーイズ」	2022.05.03 — 06.26	amazarashi (主)	クワクボリョウタ	制作・開発・デザイン
ジュニア宇宙博士認定講座における学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究	2022.05.22 — 08.07	公益財団法人岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 (共)	赤羽 亨 伊澤 宥依 佐々木 紘子	共同研究 RCIC 制作・開発・デザイン
ファルマコン展「新生への捧げもの」	2022.05.28 — 06.19	The Terminal KYOTO (場)	三輪 眞弘 前田 真二郎	文化活動 展示
ガムラン公演「花のみち」	2022.05.28	秋吉台国際芸術村 (場)	三輪 眞弘	パフォーマンス・上演
池田町有線放送アーカイブ活用	2022.06 — 翌03	池田町有線放送アーカイブ活用推進委員会 (主)	瀬川 晃 前林 明次 山田 晃嗣 金山 智子	展示
日本メディア学会春季大会	2022.06.04 — 05	日本メディア学会 (主)	金山 智子	学会 ワークショップ
School for Regenerative Design と藻類について	2022.06.08	株式会社ちとせ研究所 (共)	赤羽 亨 小林 茂 ジェームズ ギブソン 瀬川 晃 佐々木 紘子	相談 フォーラム・講演 研究・リサーチ RCIC
オアシスパークの観光資源を用いたメディア表現の展開における実践的研究	2022.06.14 — 08.28	株式会社オアシスパーク (共) 株式会社大垣共立銀行 (共)	赤羽 亨 平林 真実 佐々木 紘子	共同研究 展示 RCIC パフォーマンス・上演
NxPC.Live	2022.06.18 10.23 12.04	ソフトピアジャパン センタービル (場) オンライン (場)	平林 真実	文化活動 パフォーマンス・上演
IAMAS ARTIST FILE #08	2022.07.01 — 09.11	岐阜県美術館 (場)	前田 真二郎	文化活動 展示 RCIC
スタートアップと外国人留学生との未来共創ワークショップandネットワーク—日本と世界のCo-Working and Co-Learning—	2022.07.09	JETRO Nagoya (主)	小林 茂	ワークショップ
岐阜クリエイション工房2022	2022.07.16 — 12.04	オンライン (岐阜県) (場)	小林 茂	卒業生連携 ワークショップ
オマツリジャパン「盆踊りをモーションキャプチャーでアーカイブ!?テクノロジー × 郷土芸能で文化継承を目指す新たな取り組み」	2022.07.20	株式会社オマツリジャパン (主)	金山 智子 小林 孝浩	掲載 地域連携 研究・リサーチ
Kioskを使った展示型広報	2022.07.23 — 28 2022.11.17 — 28	ソフトピアジャパン センタービル (場) 大垣市役所 (場)	赤羽 亨 佐々木 樹 伊藤 晶子 佐々木 紘子	広報・情報アーカイブ 展示 RCIC
Maintenance Poiesis	2022.07.30 — 08.28	GALLERY CAPTION (共)	松井 茂	ワークショップ
新しいメディアを用いた防災学習教材開発	2022.08 — 翌03	特定非営利活動法人e-plus生涯学習研究所 (共)	山田 晃嗣 小林 孝浩 金山 智子	相談
岐阜イノベーション工房2022	2022.08.03 —	オンライン (岐阜県) (場)	小林 茂	産学官連携 ワークショップ
イアマスこどもだいがく2022	2022.08.19 — 09.25	大垣市情報企画課 (共)	赤羽 亨 小林 孝浩 平林 真実 山田 晃嗣 佐々木 紘子	地域連携 受託研究 ワークショップ
第4回ぎふ美術展 関連プログラム クロストーク 土田ヒロミ × 前田真二郎	2022.08.20	岐阜県美術館 (場)	前田 真二郎	文化活動 フォーラム・講演
ソフトピアジャパン・ピッチ大会「産学官連携拠点としてのソフトピアジャパンセンター」	2022.08.29	ソフトピアジャパン センタービル (場)	赤羽 亨	広報・情報アーカイブ フォーラム・講演
Maker Faire Tokyo 2022 パネルディスカッション「Maker Faireと美術系大学」	2022.09.04	株式会社オライリー・ジャパン (主)	小林 茂	文化活動 フォーラム・講演
宿題やったか? フェス	2022.09.03	FabCafe Nagoya (場)	平林 真実	パフォーマンス・上演
タレスの刻印	2022.09.11 — 10.02	NEORT++ (場)	赤松 正行	文化活動 展示
岐阜県立森林文化アカデミー連携授業「デジタルファブリケーション」	2022.09.13 — 21	岐阜県立森林文化アカデミー (共)	小林 茂 伊澤 宥依	学校間連携 RCIC ワークショップ
山形ビエンナーレ2022	2022.09.17 — 18	やまがたクリエイティブシティセンター Q1 (場)	ホアン・マヌエル・カストロ	文化活動 展示 フォーラム・講演
一佐治敏三賞受賞記念—ぎふ未来音楽展2022 三輪眞弘+福島諭 二人展	2022.09.18	サラマンカホール (主・場)	三輪 眞弘 前田 真二郎	地域連携 文化活動 パフォーマンス・上演

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教職員	カテゴリ
メディア表現学研究会	2022.09.27 ー	オンライン (場)	小林 茂 平林 真実 松井 茂	研究・リサーチ フォーラム・講演
ねお展:自由領域 (アジュール) であり続ける地域のこれまでそしてこれから	2022.10.01 ー 30	岐阜県博物館 (場)	金山 智子 小林 孝浩 吉田 茂樹	地域連携 展示 研究・リサーチ
2022年度グッドデザイン賞	2022.10.06	公益財団法人日本デザイン振興会 (主)	小林 茂	受賞
Holobiont. Life is Other	2022.10.06 ー 翌01.20	Angewandte Interdisciplinary Lab (場)	ホアン・マヌエル・カストロ	展示
FIG OUT 2022 ー 積み重なる世界ー	2022.10.13 ー 11.19	株式会社アマナ (主) FIGLAB (主)	赤羽 亨	展示 文化活動
DESIGNARD TOKYO 2022	2022.10.20 ー 11.06	Seiko Seed Harajuku (場)	クワクボリョウタ	展示 文化活動
場所・感覚・メディアー「柳ヶ瀬」	2022.10.20 ー 30	ピッカフェ (場)	前林 明次 小林 昌廣 ジェームズ ギブソン	研究・リサーチ 展示 文化活動
春日森の文化博物館 2022秋・企画展 柴田慶子展 ー聞き書き春日IIー	2022.10.22 ー 11.12	春日森の文化博物館 (主・場)	金山 智子 瀬川 晃	地域連携 制作・開発・デザイン
Global Media Arts Education -Mapping Global Perspectives of Media Arts in Education-	2022.10.23	Palgrave Macmillan (出)	赤松 正行	出版・寄稿
ドキュメンタリードリームショー 2022	2022.11.05 ー 26	シネマトリックス (主)	前田 真二郎	卒業生連携 上映
国立国際美術館 第23回中之島映像劇場「光の布置ー前田真二郎レトロスペクティブー」	2022.11.12 ー 13	国立国際美術館 (主・場)	前田 真二郎	上映 文化活動
歌舞伎を観るということ@各務原	2022.11.19 ー 20	国指定重要有形民俗文化財「村国座」(場)	小林 昌廣	文化活動 フォーラム・講演
アート自販機の導入	2022.12 ー	ギャルリー宮脇 (共)	金山 智子	相談
Ogaki Mini Maker Faire 2022	2022.12.03 ー 04	ソフピアジャパン センタービル (場)	小林 茂 佐々木 樹 伊藤 晶子	文化活動 展示 RCIC
蛍光資料のデュオ公演「対話と時間」	2022.12.07	品川区立五反田文化センター (場)	三輪 眞弘	文化活動 パフォーマンス・上演
本巣市収蔵 移転民俗資料 現地調査会	2022.12.12 ー 翌 03	岐阜県博物館協会もの部会 (主)	金山 智子 吉田 茂樹	研究・リサーチ 地域連携
地点	2022.12.16 ー 18 2023.02.16 ー 23	合同会社地点 (主)	三輪 眞弘	文化活動 パフォーマンス・上演
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜「学生による地域課題解決提案事業成果報告会」	2022.12.17	岐阜大学 (場)	赤羽 亨	審査
社会情報学 第11巻2号「コミュニティ放送における災害の語り：会話分析によるゲストとパーソナリティの相互行為」	2023.01	社会情報学会 (主)	金山 智子	出版・寄稿 研究・リサーチ
Leading Educational group for Display research.実行委員会	2023.01.12 ー 02.03	サカエチカマチ株式会社 (主)	鈴木 宣也 前田 真二郎 平林 真実	学校間連携 上映
CLUB TRAIN 2023	2023.01.14	樽見鉄道株式会社 (主)	平林 真実 金山 智子	産学官連携 パフォーマンス・上演
アトラボぎふ「ワークショップ「音のなる器」を紡ぐ」(講師：金箱淳一)	2023.01.22	岐阜県 (主) 公益財団法人岐阜県教育文化財団 (主)	前田 真二郎	地域連携 卒業生連携 ワークショップ RCIC
驚異の声、驚異の言葉	2023.01.28	横浜みなとみらいホール (場)	三輪 眞弘	パフォーマンス・上演
IAMAS TALK SESSION -Fab Meetup vol.9-	2023.02.03	FabCafe Nagoya (主)	鈴木 宣也 赤羽 亨 佐々木 紘子	広報・情報アーカイブ フォーラム・講演 RCIC
JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL 25周年企画展	2023.02.04 ー 14	文化庁 (主)	クワクボリョウタ	展示 文化活動
メディコス広場づくりアイデア創出ワークショップ	2023.02.11	ぎふメディアコスモス (場)	赤羽 亨	ワークショップ 卒業生連携 RCIC
さかの映像祭	2023.02.18	さかの映像祭実行委員会 (主)	金山 智子	審査
科学コミュニケーション論の展開「メディア・アートと自然科学の連携がもたらす新しい発問の仕掛け」	2023.02.20	東京大学出版会 (出)	ホアン・マヌエル・カストロ	出版・寄稿
はたやフォーラム	2023.03.18	勝山市 (主)	金山 智子	フォーラム・講演
ケアする人のケアセミナー in ぎふ	2023.03.19	一般社団法人たんぼの家 (主) 一般財団法人住友生命文化財団 (主)	金山 智子	フォーラム・講演



■ 詳細情報

各活動の詳細情報は左記の QR コードからご確認いただけます。

IAMAS RCIC Annual Report 2022

- IAMAS 産業文化研究センター 年次報告書 -

2023年2月発行

監修：赤羽 亨(RCIC センター長 / IAMAS 教授)

編集：佐々木 紘子(RCIC)

デザイン：近藤 崇司(GOCCO.)

発行：IAMAS 産業文化研究センター (RCIC)

印刷：ニホン美術印刷株式会社

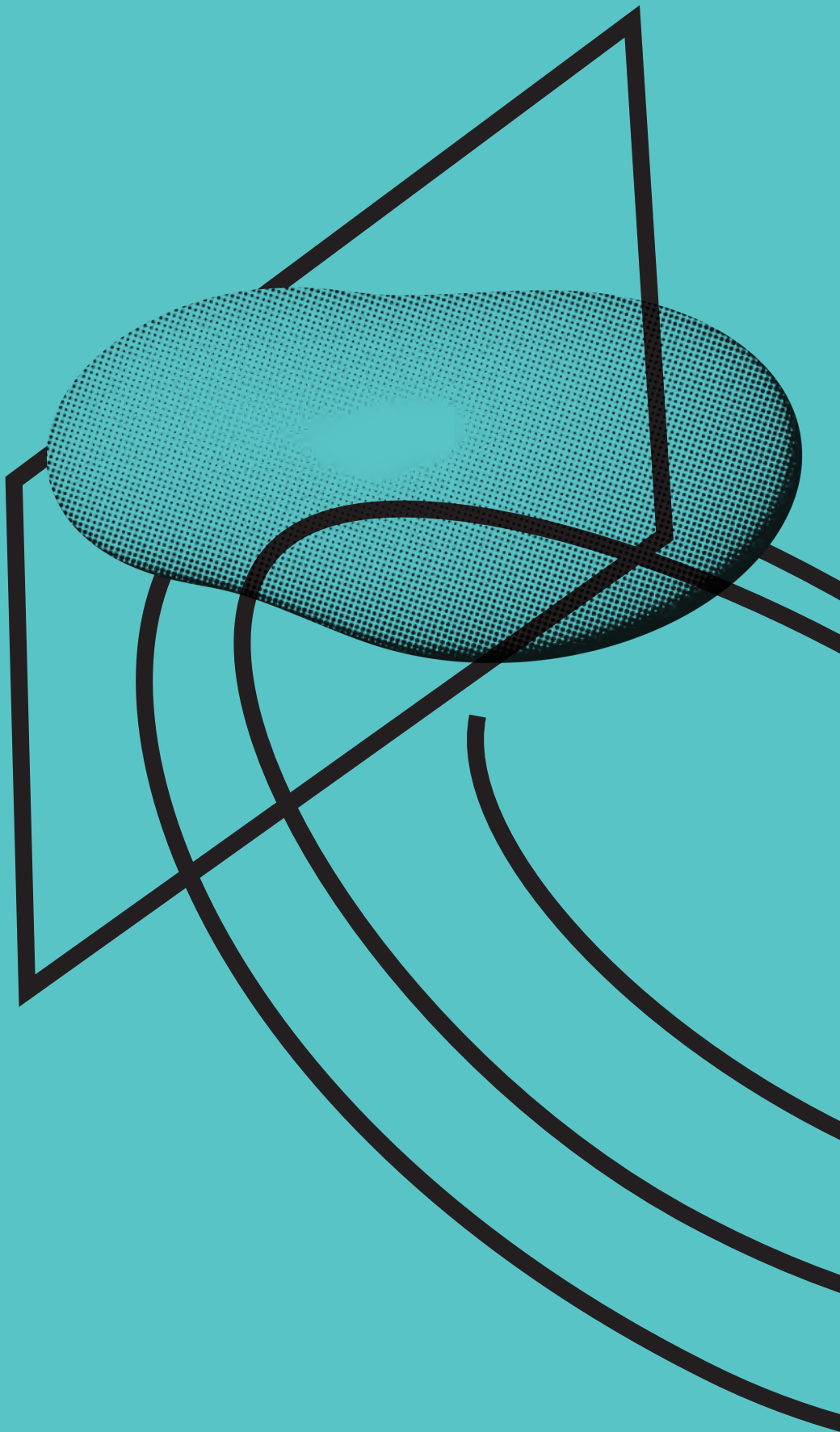
IAMAS 産業文化研究センター (RCIC)

〒503-0807

岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ24 5階

<https://www.iamas.ac.jp/rcic/>

rcic@ml.iamas.ac.jp





RCIC

Research Center
for Industrial Culture
産業科学技術大学院大学産業文化研究センター

